

25年のキャリアで

Fitness Clubを
プロデュース

事業内容

■企画書の制作

(市場調査・マスタープラン・収支計画)

■海外視察

(米国西部・東部・欧州イギリス、西ドイツ、イタリア、ハンガリー)

■設計

(設計・監理・カラーコーディネート)

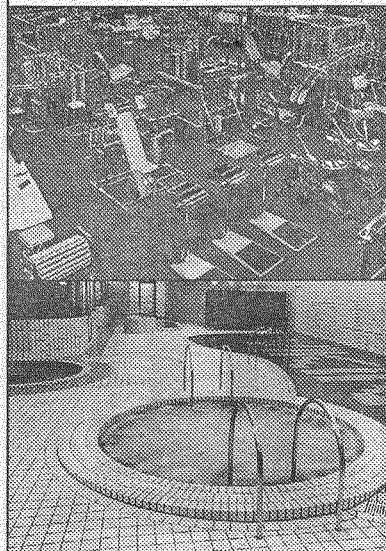
■運営・管理

(オープンまでの業務・メンバー募集活動・運営指導)

■運動指導員

(養成、研修、派遣・運動プログラムの作成)

■企業内フィットネス プラン



全国各地手掛けたクラブは40数件、
豊富な経験を誇る健康運動施設づく
りの総合プロデュース会社です。

お問合せ

ジャパンターナー株式会社

03-943-4181

〒112 東京都文京区大塚3-8-1

東京動物管理事務所の支所には、こういう引き取り要望者からの電話が毎日ひっきりなしにかかってくる。

「六年ほど飼った大なんですが、子供が中学の受験を控えていて、静かな環境にしたいので

引き取ってください」

職員「なぜ飼ったんですか？」

「子供の情操教育のためにと思って」

子ネコをまとめて生ゴミで

イヌの鳴き声がうるさいと言われるのは、近所づきあいの悪さが原因である場合が多いし、言うことを聞かないのは本当は飼いが悪いんです。

職員が怒るのもっともではないか。

「ケンカしちやいないとは思いますが、電話で本気になって怒鳴ることもありますよ。私たちはみんな動物が好きなのに、仕方なく動物を処分する仕事をしなければいけないんです。私なんか、酒を飲んでウサを晴らすしかないんですよ」

しかし、電話をしてくるのはまだ良心的のひとつになると、「まだ目が開かない子ネコを、四、五匹まとめてポリ袋に入れて、生ゴミと一緒に出す人がい

職員「じゃあ、これからも飼った方がいいんじゃないですか」

「いいえ、もう情操教育は終わりましたから……」

ます。この支所の管内でも、年に何回かは必ずありますよ」

(同事務所西部支所の三宅勉支所長)

愛好家の家に、持てあましたペットを置き去りにする不届きな飼い主も跡を絶たない。前出 西山園長も被害者の一人。

「昔からネコやイヌをうちに捨てる奴が多いんだ。この間もどこの飼い主から動物園に電話があつて、『ウサギを寄付します』と言うから、『要らない』と答えたら、早朝トラックでうちまでやってきて、ダンボールを山と積んで逃げられた。中に

はウサギが五十匹もいたんだよ。近所の人の話では、東京ナンバーだったらしい。

白昼堂々と動物園にアヒルやコイを捨てに来るものもあるし、近くの利根川の河川敷にモルモットを百匹以上捨てたものもある。

他人の苦しみのカスを試う人はいないことをわかっていないのかね。こんな飼い主がいるから、日本中が困っているんだ」

飼い主は、「誰かが拾って、飼ってくれる」と信じて捨てるのかもしれないが、そのほとんどは病気になるまで死ぬか、捕獲されて処分されるのが現実。

総理府の統計では、毎年七十万匹以上のイヌとネコが飼い主に捨てられて、地方自治体によって合法的に、安楽死させられている。

グラフでもわかるように、イヌの殺処分数が年々減っているのとは逆に、ネコの殺処分数は急増、昨年度は三十万匹が処分された。処分されたネコの八〇%以上は、生後数カ月以内の子ネコだった。

「動物の虐待防止」は、『動物の保護及び管理に関する法律』で保障されている。それにもかかわらず地方自治体がネコとイヌを安楽死させているのは、この法律が同時に、飼い主からネコとイヌの引き取り(処分のこと)を求められた時は、「これを引き取らなければならない」とあるからだ。

さらにイヌに関しては、『狂犬病予防法』で、鑑札や予防注射済票をつけないまま放し飼いになっているイヌを「抑留(強制収容)しなければならない」